



AJPPRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2011.WINTER

Vol.01

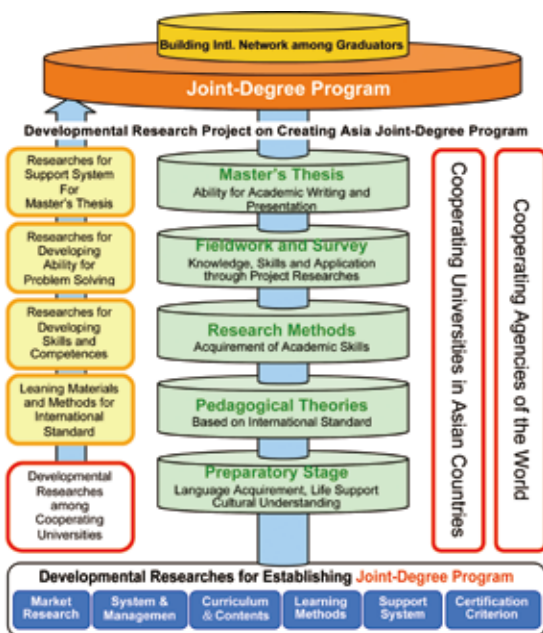
アジア共同学位 開発プロジェクトの推進

東北大学大学院教育学研究科では、平成23年度から平成27年度までの5年計画で、概算要求特別経費として採択された「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」を進めています。この研究の推進事業名が「アジア共同学位開発プロジェクト」(AJP: Asia Joint-degree Project)であり、私、本郷一夫がリーダーを務めさせていただいています。

このプロジェクトでは、国際的教育指導者養成の共同学位創設を目指した研究拠点を形成し、質の高い共同学位プログラムを開発することにより、東アジアの教育課題に対応できる国際的視野を持った指導的人材の養成を目指しています。より具体的には、東アジアを中心に据え、

- ①その教育の現状を的確に分析できる教育研究者、
- ②その教育課題を認識し、教育現場で教育実践を担うことができるリーダー教員、
- ③世界の教育改革を視野に収め、政策立案に携わることのできる教育行政関係者、

などの人材を養成しようとするものです。
このような国際的教育指導者には、



- ①高度な専門的な知識、
- ②東アジアに対する理解と共感的態度、
- ③教育研究技法と東アジアの言語の習得、
- ④世界に開かれた人的ネットワークの形成と情報発信など

の資質と能力が求められると考えられます。

このような目的を達成するために、本プロジェクトでは、最初の3年間で、

- ①専門性の向上を目指した国内外の教員による共同セミナーの開催、
- ②東アジアの有力大学との国際交流プログラムに基づく教員・学生の派遣・受け入れ、
- ③共同学位のプログラムの開発研究

を進めていきます。さらに、事業の4年目、5年目に当たる平成26年度、27年度には共同学位プログラムを試行的に実施する計画を立てています。

以上の目的をもって始まったプロジェクトは、東北大学大学院教育学研究科だけで遂行できるわけではありません。海外の大学との連携はもちろん、国内の大学との交流と情報交換、東北大学内における協同によって、実現できるものです。今後、様々な連携・協力・支援体制の構築を通して事業目標の達成を目指すとともに、事業終了後も発展し続けていける基盤を作り上げていきたいと考えています。

皆様の協力とご支援をよろしく申し上げます。

(本郷一夫)

東北大学大学院教育学研究科 アジア共同学位開発プロジェクト発足記念シンポジウム

第Ⅰ部 基調講演

「アジア型エラスムス・ムンドゥスの可能性」

放送大学副学長・広島大学名誉教授 **二宮 皓** 氏

本シンポジウムは、放送大学副学長であり広島大学名誉教授である二宮皓氏による基調講演から始まった。タイトルは「アジア型エラスムス・ムンドゥスの可能性」で、ヨーロッパのエラスムス・ムンドゥスをはじめとする諸外国の共同学位の戦略や、アジアにおける共同学位の可能性、日本の高等教育戦略における位置づけなど、高所大所から、本プログラムの位置づけや意義についてご説明をいただいた。



第Ⅱ部 シンポジウム

- 「慶應義塾大学理工学部におけるダブルディグリーへの取り組み」
慶應義塾大学理工学部教授 **小尾 晋之介** 氏
- 「東北大学大学院理学研究科の取り組み」
東北大学大学院理学研究科教授 **山口 昌弘** 氏
- 「早稲田大学の取り組み」
早稲田大学国際部・留学センター准教授 **江 正殷** 氏
- 「東北大学大学院教育学研究科の思想」
東北大学大学院教育学研究科教授 **本郷 一夫** 氏

第Ⅱ部では、慶應義塾大学理工学部教授の小尾晋之介氏から、フランスとの共同学位について単位の互換や学習の道筋などカリキュラムの具体的な設計を中心として話題提供がなされた。つづいて、東北大学内で同様のプログラムを先行して実施させている理学研究科教授の山口昌弘氏から、フランスのグランゼコールとのダブル・ディグリー、および中国の清華大学との共同教育についての報告があった。ここでは、東北大学で実施する場合の受け入れ留学生の身分や単位の設定など、具体的な話に及んだ。また、

早稲田大学国際部・留学センター准教授の江正殷氏からは、実際に共同学位のための交渉締結と今後の運営に携わった立場から、共同学位プログラム実施上のさまざまな問題についての提言があった。早稲田大学では、本学よりも大規模に共同学位のシステムが動いているため、実施上のさまざまな問題や学生のケアに及ぶ幅広い話題提供がなされた。最後に、本教育学研究科のプロジェクトリーダーである本郷一夫から、これからスタートする「アジア共同学位開発プロジェクト」の概要とその方針が披露された。



第Ⅲ部 パネルディスカッション

——共同学位実施上の問題点

【清水】4人の先生方からご報告をいただきました。やはり難しい問題がいくつかあって、一つは、日本で修士号を獲得するためには国内の大学で決められた単位を取るといった法的な規制があるということ、それから財政的なサポートの問題、さらに、大学の持っている文化の問題であろうと思います。最終的にはどうやって新しい価値をつくっていくのか、それがなければ、日本の大学は相対的に魅力のない大学となり、世界の中で取り残されていくことになるということを感じました。

【福村】うちも、結局、語学が一番の障害になっています。

【小川】日本で学位を取られて帰国された先生方に伺った日本の魅力としては、やはり最先端の研究と潤沢な資金で最先端の設備で研究できるところでした。また、今日お話の中で、ダブル・ディグリーの理念や、重要な点の一つというのは、異なる文化で学ぶところにあるということですね。ただ、ダブル・ディグリーが、帰国後、どれほど有用性があるか問題です。プログラム等がはっきりしていないと続かないのではないのでしょうか。

——なぜ共同学位の制度が必要か

【森本】移動していった知識が広がるかと交流するといえれば聞こえはいいのですが、学生が持っている時間とか労力というリソースは限られています。従来の留学のように、明確な目的があれば別ですけれども、そうでなければ、別に学位まで取りに行く必要はなく、サマースクールでもいいし、ノンディグリーで留学するだけでも済むのではないかと思います。

【小尾】もともとヨーロッパは国境を接して違う国で違う言葉話す人たちが大勢いるなかで生きているわけですから、そういうことを学生時代に経験して知っている場合は、やはり相当、心構えが違うですね。サマースクールはあくまでもお客さん扱いで、実際に留学するのでは全然臨場感が違います。そういう経験をすると、本当にたくましくなります。

【山口】私自身は、外国に出て一人で数年頑張っているというのは、非常に貴重な経験であったと感じております。特に中国に関して言うと、本当に毎回行くたびにまったく変わっている。どんどんそういう雰囲気に触れているような人材というのにも必要なのではないかと感じています。

【江】少し違う観点から申し上げますと、質的保証ですね。学生が海外のダブル・ディグリーに参加して授業を受けてくると、日本のカリキュラムで学んだことがいかに通用しないかを実感して帰ってくる。そうすると、授業

料を払っているのになぜなんだとなる。さらに留学生が毎年入ってくると緊張感が生まれ、そういう中で鍛えられていくと教員も強くなるし、当然日本人学生にも波及効果があります。そうすると事務系統も全部変わってきます。そのような、いい形でのプレッシャーが質的保証になっていくのです。

【本郷】まずは、修士のところを充実させることということによって、学領域が広がったり進化をしていくということにつながる。それからネットワーク形成ということもこれから国際交流のなかでは実質的には大事になってくると思います。

——学生のケアについて

【小尾】留学生を受け入れた場合に、その学生が何か問題を抱えた場合のことは、絶対に避けてはいけない問題です。ダブル・ディグリーで来る学生はまず寮に入れますが、寮には日本人大学院生のレジデンスアシスタントがいて、学生同士の交流を図るようにしている。語学の面に関しては、学力的に認められた場合、それまでに自習したことがない学生でも派遣する場合があります。実際に行くのが夏ですけれども、その年の2月、3月ぐら

いに選考し、派遣時までには十分に準備をするように言います。

——「東アジアにおける国際的教育指導者養成共同学位プログラム」の目的

【中島】学生の交流を行なう場合、魅力的なプログラムというのが、まず大切になってくると思うのです。その場合、このプログラムの教育専門家を養成するというのは、研究指導型なのか、それとも教育実践型なのか。それから、ジョイント・ディグリープロジェクトですから、いくつかの大学で一つのプログラムを実践していくということなのですが、いくつかの大学を候補に挙げていらっしゃいますか。

【本郷】はい、まさに、これからどうプログラムをつくっていくかによって、学生からいかに興味を持ってもらえるかを考えていきたいと思えます。先ほどの教育専門職は、就職の場合と研究者の両方をまずは目指すということでございます。また、2番目については、まだ具体的に実現をしていないのですが、韓国や中国と、もう一つぐらいネットワークができればいいのですが、まずは、そのような方向性を考えてこれから動くことを予定しております。

平成23年度進捗状況 (10月末日現在)

シンポジウム



■7月16日(土)開催シンポジウム(終了)

寺門成真企画官(文科省)、二宮皓先生(放送大学)、小尾晋之介先生(慶應義塾大学)、江正殷先生(早稲田大学)、山口昌弘先生(東北大学理学研究科)招聘。

調査活動

■国内調査

- 11月22～23日、立命館大学

■海外調査

- 5月22～26日、ACA2011年次会議、オーストラリア
- 10月12～16日、ACAシンポジウム、ベルギー
- 11月17～22日、全北大学校(サマープログラム開講授業の情報収集)、韓国

■大学訪問

- 4月29～5月3日、高麗大学校
- 6月8～12日、高麗大学校・ソウル国立大学校
- 8月10～14日、国立台湾師範大学・国立政治大学
- 8月23～30日、華東師範大学・浙江大学・南京師範大学・北京師範大学
- 9月15～20日、国立台湾師範大学・国立政治大学・国立暨南国際大学
- 10月22～30日、華東師範大学・南京師範大学・北京師範大学
- 10月26～29日、高麗大学校・ソウル国立大学校

シンポジウム

- 国際シンポジウム「国際的共同学位による新たな人材育成の可能性」
- 12月9日(金)9:30～16:00(東北大学文系総合研究棟11階大会議室)
- 講演者

【第一部】

基調講演:本郷一夫(東北大学大学院教育学研究科・教授)

講演1:李家永先生(北京師範大学・副教授)

講演2:徐光興先生(華東師範大学・教授)

講演3:傅宏先生(南京師範大学・教授)

【第二部】

講演4:HAHN Younjin先生(高麗大学校・教授)

講演5:SONG JIngwoong先生(ソウル国立大学校・教授)

講演6:林家興先生(国立台湾師範大学・教授)

講演7:詹志禹先生(国立政治大学・教授)

連携事業《韓国》

- 高麗大学校と部局間協定締結(締結式:12月10日)



AJP ASIA
JOINT-DEGREE
PROJECT

東北大学 大学院教育学研究科
アジア共同学位開発プロジェクト事務局
TEL:022-795-3756 E-mail:konno@sed.tohoku.ac.jp
www.asia.joint-degree.project.com